

ふれあい通信

第18号

令和5年 2月 発行

■発行：なかしべつ地域生活支援センター

■連絡先：(Tel) 0153-73-3185 (fax) 0153-72-8070

■住所：標津郡中標津町東 17 条北 9 丁目 4 番地 1

■メール：nakashibetsushienn@dofukuji.or.jp

■アドレス：<http://www.dofukuji.or.jp/facilities/nakashibetsu-shien/>



新年のご挨拶



なかしべつ地域生活支援センター 所長 谷川 智生

なかしべつ地域生活支援センターは、根室圏域の中でたくさんの事業を展開しています。広域の中でも事業をスムーズに展開できているのは、各行政機関、関係機関・団体のみなさま、地域のみなさまのご理解とご協力の賜と深く感謝いたします。

コロナウィルスが国内で確認されてから3年が経過しました。この間、マスクや消毒が日常化するなど生活様式の変化がありました。当初のギスギス、ピリピリした社会の雰囲気はかなり柔らかくなってきたのかなとは思いますが、「インフルエンザと同じレベル」と言われても素直にうなづけない現状です。

京都・清水寺で発表される「今年の漢字」(2022)は、「戦」でした。スポーツの熱「戦」も要素としてあったようですが、どうしてもネガティブな暗いイメージを引きずってしまいます。「平和」や「安全」「安心」がイメージできる一年にしたいものです。

昨年後半、全国的に福祉事業所や学校、家庭での虐待や権利侵害のニュースが次々と流れました。まだまだ氷山の一角と捉えるべきなのでしょうか。それとも少し時間はかかっても隠されずに表面化する社会になってきたと捉えるべきなのでしょうか。「権利擁護」「意思確認」「優生思想」等々の観点から、まだまだ議論が続いているものもあります。

我々福祉事業所の立場としてやるべきことは二つ。制度に基づいて粛々と運営すること、そして制度の中では処理できない課題に対しては、その解決策を様々な角度から検討、模索することだと思っています。

残念ながら福祉の分野に限らず制度には不十分なところが多々あります。見直しの繰り返しをしながらバージョンアップしています。「障がい福祉」の範疇ではすぐに解決できない課題や利用者の要望に対しては、複数の分野が連携することでクリアできることも多くあります。「保健」「教育」「医療」「介護」「労働」「経済」「環境」等々さまざまな分野のネットワーク作りが重要となります。

支援者は、利用者の生活を「守る」「養護する」「維持する」等の日常が多いものですが、「情報の提供」と「選択肢の提供」という前に進むアプローチを丁寧に行なっていきたいと思っています。

2023年度もまた、なかしべつ地域生活支援センターの運営にご指導・ご支援・ご協力をお願いいたします。





年末年始の催し



放課後等デイサービス とらいあんぐる【冬休みを楽しもう☆】

事業所長 小岩 知美

朝晩の寒さも日に日に増し季節も冬になりましたが、子供達は毎日ワクワクしながら過ごしています。新型コロナウイルスが拡がり、瞬く間に3年がたち、未だに安心できない状態が続いていますが、少しでもお子様たちに楽しい気分になってもらいたい思いで、年末はクリスマスレクリエーションを企画しました。



当日に向けて早口言葉や歌、ダンスの練習など大忙し！緊張しながらも挑戦しようと頑張る姿や、様々な場面で助け合ったり、協力して何かに取り組む様子は寒い季節ながらも心が温かくなります。

また季節ごとの壁面制作はお子様や保護者にも定着して、楽しみにして頂いていることもあり、職員も気合いが入ります。今回は、日中一時支援事業 カスタネットとのコラボでクリスマスを飾りました

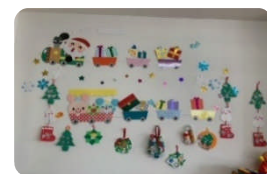


年明けは中標津産のジャガイモを使った団子を食べました。外では手作り凧をあげるなど、お正月気分を味わうことで楽しい思い出作りも出来ました。

別海町児童デイサービスセンター【笑顔でコロナを吹き飛ばそう！】

事業所長 武市 敦子

クリスマスにお正月休みと、お子様たちには楽しみがいっぱいの季節がやってきました。別海町児童デイサービスセンターでは、季節感を大事に療育に取り入れ、お子様の発達を支援しています。



保護者様のお話をお聞きしていると、お子様たちは待ちきれない！とワクワクしながら過ごしている様子が目に浮かぶようです。デイに通所されているお子様たちがクリスマスの制作に意欲的に取り組んでくれたので、みなさんのおかげでとても可愛らしい壁面制作ができあがりしました。また、クリスマスツリーも一緒に飾ってホールにて、通所されているみなさまにご覧いただけるようにしています。

可愛らしいお子様の笑顔を見ることができると、コロナもどこかへ吹き飛ばせるような気がして、毎日職員が癒されています。

根室市児童デイサービスセンター【クリスマスを作ろう！】

事業所長（主査）久山 剛

今年もお子様方が楽しみなクリスマスがやってきました。デイに通所されるお子様達の話の中に、「せんせい、僕クリスマスに（プレゼント名）貰うんだ！」と、お願いする品を決めて担当に教えてくれることもあります。



根室市児童デイサービスセンターでは、コロナ禍に入る前は12月に「ひだまりクリスマス会」を実施し、世代を問わず参加者の皆さんで映画鑑賞をしたり、サンタさんからプレゼントがもらえるイベントを行っていたのですが、最近はそのような状況にあります。何とか直接集まらなくても皆で形に残すものを作れないかとスタッフで考えた結果、写真のようなツリーの飾りを療育内で作成し、自分で飾りつけをしてもらうことで、皆で楽しむ方向にしました。セットで入っていた飾りが必要ないくらい、様々な工作でツリーを彩ることができました。

グループホーム（ふれあい）【グループホームのクリスマス】

主査 進藤 幸介

毎年、ホテルを貸し切ってグループホーム全体でのクリスマス会を行っていましたが、今年度もコロナ禍で開催することが出来ず、その変わり各グループホーム毎にクリスマス会を開催しました。

予めクリスマスケーキ、パエリア、チキン、ピザなどを予約し、クリスマスイブに受け取って、みんなで会食の用意をしました。

会話も弾ませながらの会食にしたいところだったのですが、黙食を守りつつ眼で楽しさを表しながらみんなで楽しい時間を過ごしました。

食事の量がやや多めでしたが、余っていたピザや唐揚げもみんなで分けて、全員完食されていました。最後はコーラやジュースで『来年こそは大勢で、楽しい会ができますように』と願い、乾杯をしてクリスマス会を終えました。





着任のごあいさつ

このたび、なかしべつ地域生活支援センターに異動してきた職員をご紹介します。

放課後等デイサービス「とらいあんぐる」・日中一時支援「カスタネット」

保育士 野村まどか

10月からなかしべつ地域生活支援センターに配属になった野村まどかと申します。新卒から6年半児童入所施設の白糠学園に勤務していました。

地元は釧路なので今までは実家から通っていましたが、今回初めての転勤・一人暮らしを経験させていただくことになりました。慣れないことばかりですが、今までの経験を活かしながら、中標津でお子様たちと楽しく一緒に過ごすことが出来ればと思います。これからよろしくお願いいたします



ご寄贈（ポータブルバッテリー）



三宅政文様（グループホームアシル利用者故三宅義和様ご家族）から福祉の向上のため、また大規模停電時等の備えとして、なかしべつ地域生活支援センターにポータブルバッテリーの寄贈がありました。ご寄贈いただきました物品につきましては非常時の備えとして有効に使わせていただきます。ご寄贈ありがとうございました。



明けましておめでとうございます。今年も宜しく願い致します。今回の機関紙では各事業所の年末年始の取り組みを主に取りまとめていたのですが、新型コロナウイルスによる行動制限は緩やかになったとはいえ、人が集まってる行事などはまだまだ難しさを感じさせられます。通所できている方はまだしも、入所されている方などはそこがほぼ生活の全てになるため、制限のある中で生活に潤いを提供することは大変なことであると実感しました。

今年が皆様にとってよい1年になりますよう、祈念申し上げます。

(M&H)

